



志岐高便り

第135号

発行責任者
山口 千樹



携帯サイトへ

長崎県立志岐高等学校

長崎県志岐市郷ノ浦町片原88

[TEL] 0920-47-0081

[HP] <http://www2.news.ed.jp/section/iki-h/>

巻頭言

あなたの夢は何ですか？

教頭 濱野 正義



高校生の君たちに読んでもらいたい一冊の本がある。筆者は池間哲郎氏。

カメラマンだった池間氏はフィリピンのゴミ捨て場、いわゆる「スモキーマウンテン」を撮影のため訪れる。そこでゴミを拾っている10歳くらいの女の子に尋ねてみた。

「あなたの夢は何ですか？」

帰ってきた答えは、まったく予想すらしなものだった。

「私の夢は大人になるまで生きることです」

心に突き刺さる言葉です。大人になれずに亡くなっていく子どもがたくさんいる、そんな過酷な生活環境。学校などももちろん行けるはずもなく、明日を生きるために、今日という日を精一杯生きているのです。

タイの北部やカンボジアでは今でも子どもが生活のために売られている。プノンペンでは5万円です。地方に行くと男の子であれば3千円。まさに文字通り、奴隷として「買う」のです。親がいない彼らは、街でシンナーを吸っている。快樂のためではない。一食の代金は50円足らず。そのお金がないため、1本5円のシンナーを吸って空腹を紛らわしているのです。

私はこの本を涙ながらに読んだ記憶を今でも覚えている。この本は、私たちの「当たり前」を考え直させてくれる。「当たり前」の反対は「ありがとう」だとよく言われる。

私たちは、日本という大変恵まれた国に生まれ、生活できているのに、日常は何か不足感ばかりを感じ、不満ばかりを口にする。便利できれいな物に囲まれ、おいしい食べ物に不自由しない私たちの生活は、どんなに消費しても、その充足感を味わえなくなってきてしまっている。それで「ありがとう」という感謝の気持ちまでもが薄れている。

そこで私は、新年を迎えるにあたり、君たちに次の言葉を贈ります。

物を大切に、

人の心を大切に、

自然を大切に、

自分を、そして周りを、大切に、

感謝の気持ちを忘れずに毎日を生きてほしい。

最後に、この本のエピローグの部分に書いてある一節を載せます。

『一番大切なボランティアは、自分自身がまず真剣に生きることです。一生懸命生きる人じゃないと、本当の命の尊さはわかりません。』

そう思える一冊です。とにかく1日で読める本ですから、ぜひ読んでみてください。

本のタイトルを書いていませんでしたね。

タイトルは『あなたの夢は何ですか？ 私の夢は大人になるまで生きることです』

(この本の印税はアジアの貧困地域に暮らす子どもたちの支援活動に充てられます)

第 3 学 年 よ り

1月14日、15日に大学入試の第一関門であるセンター試験が無事終了しました。これからは、国公立大の二次試験や私大の個別試験に向けて自分の目標を達成できるよう、更に努力を続けてください。受験はこれからが本番です。体調管理に努め、自らの進路実現に向けて直向きに前向きに邁進してください。



進路決定者は、27日で学年末考査が終わり、2月1日より自宅学習期間に入ります。進路先によっては課題が出ている所もありますので、必ず期限までに提出してください。

4月からスムーズなスタートが切れるよう、今できること、やらなければならないことを自分で考え行動に移してください。規則正しい生活をし、自分の言動には責任を持ってください。



第 1 学 年 よ り

1月は特に欠席が目立ちました。進路実現までの道程は決して容易なものではなく、立ち止まることもあるでしょうが、入学時の思いを再認識させ励ましてください。

さて1学年の生活も残り僅かとなり、また2月、3月は自宅学習の期間があり、より自主性が重要となります。また、春季休業はリフレッシュも必要ですが、将来への投資と捉えて行動することも必要ではないでしょうか。社会は活躍できる人材を求めている、学力は勿論、どのような強みやアピールポイントを持っているかが問われます。生徒には酷ですが、+αを身に付けておくことが大切です。この期間中、進路研究が深まる大学の体験入学や、人間力が高まる震災ボランティアなど、成長する機会があります。ご家庭で話し合い、必要なものには参加を促してください。

保護者の皆様におかれましても、生徒の一層の成長に積極的に関わり、新年度に良いスタートを切るための充実した期間とすべくご指導ください。

第 2 学 年 よ り

2学年最大のイベントとも言える、修学旅行が終了しました。「無事に」と言いたいところではありますが、インフルエンザで生徒の途中離団が発生し、多方面にご心配をおかけいたしました。

天気には4日間とも恵まれました。軽井沢では-12℃を記録するなど慣れない状況ではありましたが、快晴の下、生徒は飛躍的にスキーの技術を向上させ、上級コースを滑る生徒も出ています。2日目のクラス研修ではどのクラスもよく練られた出し物を披露し、生徒の意外で新たな個性を発見でき、大いに盛り上がりました。

3日目の午後はディズニーランドで各班が自由に行動しました。この部分については、どのようなアトラクションを楽しんだかなど、ぜひお子様と話をさせてください。

4日目は9カ所に分かれての企業研修でした。壱岐高卒業生が応対してくださった企業、収録中の芸能人に会えた企業、飛行機を間近に見ることができた企業など、東京近辺でしかできない職業体験が行えたようです。

この修学旅行でかけがえのない思い出ができました。人間的にも一回り大きくなった2年生。この経験を今後の学校生活や将来に最大限生かして欲しいと思います。



徳岐高Topics!

「新春校内百人一首大会」

1月11日（水）、本校体育館で、1，2年生全員と虹の原の生徒が参加して、毎年恒例の百人一首大会が行われました。

冬休み中に百人一首を暗記してきた生徒たちは、お目当ての札を探して一心不乱に取り札を見つめ、特に人気の和歌が詠まれると勢いよく札を取りあい、あちこちで大きな歓声が上がっていました。



2月行事予定

①1年 ②2年 ③3年

1	水	登校日③
2	木	自宅学習期間③一部（～24金）
3	金	コース特別講義
4	土	進研実力マークテスト② ★① ③
5	日	進研実力マークテスト②
6	月	推薦入試設営
7	火	AT推薦・離留入試
8	水	登校日③
9	木	
10	金	漢字検定
11	土	【建国記念日】 ★③
12	日	
13	月	考査時間割発表①②
14	火	
15	水	登校日③
16	木	
17	金	
18	土	★③
19	日	第3回英検二次（郷中）
20	月	学年末考査①②
21	火	学年末考査①②
22	水	学年末考査①② 登校日③
23	木	学年末考査①② 特編Ⅱ期終了
24	金	考査返却特別時間割①② 自宅学習③
25	土	国公立大前期試験
26	日	
27	月	卒業式設営 考査返却特別時間割①② 市長・教育長・埋文所長表敬訪問 （コース③）
28	火	卒業式予行 *第3回コース交流会

進路指導部より

1/14・15にセンター試験が行なわれました。3年生は自己採点の結果と、これまでの対外試験での結果などをもとに、担任とさらなる面談を重ね、希望する国公立ならびに私立大学へ出願していくことになります。

国公立大学は2/25の統一日に前期入試が実施され、受験生諸君は記述中心の試験に挑みます。その後3/1の卒業式を迎えますが、一息つく間もなく翌日から中期、後期試験に向けて学習を再開します。3/5～10に前期入試の合格発表が行なわれ、そこでようやく合格を勝ち取ることになります。しかし、3/8の中期入試、3/12の後期入試まで粘りぬくことになる場合もあり、その合格発表は3/20～24に行われます。

周りの友人が進路を決定していく中で、最後まで頑張りぬくことは、お子様にとっても大変なことですが、職員一同、卒業式後も精一杯教科指導に取り組みます。最後まであきらめず強い気持ちで受験に臨むよう、ご家庭での激励とご支援をお願いいたします。

生徒指導部より

新年も1ヶ月が過ぎようとしています。年始めに立てた目標を実現する生活ができていますか。3学期は授業日が少ないため、「自ら学ぶ力」がないと学力も体力も大きく差が開いてしまいます。この差を埋めることは容易ではありません。次のステージで最高のス

タートを切るためにも、今一度生活を見直し、目標に対して「自ら学ぶ力」を発揮できるように、家庭での学習の在り方も含め、生活を見直しましょう。

また、吉崎高校の生徒として、挨拶やマナーなど「凡事徹底」を心掛け、一人一人が学校の代表であるという自覚を持ち生活して欲しいと思います。有効な時間の過ごし方ができるように、ご家庭でのご協力をよろしくお願い致します。

生徒会・美化部より

12月25日(日)に、吹奏楽部第26回定期演奏会(クリスマスコンサート)第1回文化部合同発表会を吉崎の島ホールにて開催しました。例年開催している吹奏楽部のクリスマスコンサートに合わせて、多くの文化部に発表の場を設けることを目的に、文化部合同発表会と名称を追加しました。

吹奏楽部の演奏は昨年にも負けず素晴らしい演奏で、会場が大いに盛り上がりました。放送部は作成した映像の上映とステージ進行を行いました。またロビーにて書道部・写真部・美術部が作品を展示しました。

来年度も今年度と同様に文化部が一堂に会して日頃の成果を発表する場を設けたいと考えています。



中国語講師 王佳先生コラム「多彩中国(中国いろいろ)」

日本のお正月に対して、中国で正月というと春節のことを指します。春節は中国人にとって最も重要な祝祭日で、大晦日の夜から始まります。この日は家族が集まり、一緒に対聯(めでたい文句を書いた紙)を張ったり爆竹を鳴らしたりして、一家団欒で最後の除夕を過ごすのです。夕食後、皆でお喋りしながら餃子を作ります。また多くの家庭が「春節の夕べ」という年越し番組を見ながら新年の到来を待ちます。12時になると爆竹をならし、餃子を食べる習慣があります。新年の最初の日に親戚と友達の家を訪ね、新年の挨拶を交わし、子供にお年玉「压岁钱」をあげます。压岁钱をもらった子供は平安に一年が過ごせるといわれます。

春節のこのような習慣には由来があります。大昔、「年」という獰猛な獣がいて、毎年旧暦12月30日の夜に姿を現し人を食べていました。この獣を退治するために、人々は食べ物を供え赤い服を着て爆竹を鳴らすと獣が驚いて逃げ出しました。これが春節「過年」の由来です。

